

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	岱明地区地域水産業再生委員会
代表者名	上原 康己

再生委員会の 構成員	岱明漁業協同組合、玉名市
オブザーバー	熊本県漁業協同組合連合会、熊本県県北広域本部水産課

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	熊本県玉名市岱明町高道地区、鍋地区 海苔養殖業22名、アサリ採貝業120名、漁船漁業10名 (網漁業、かご漁業、一本釣り漁業) 延べ152名
-------------------	--

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地区は、熊本県の北部に位置し、有明海に面しており、目の前には雲仙普賢岳が望んでいる。周辺海域では、海苔養殖業や干潟域を漁場としたアサリ採貝業が主であり、刺し網、流し網漁業、いかかご漁業、一本釣り漁業が営まれている。

しかしながら近年の海苔養殖業においては、温暖化等の影響により、海苔養殖期間の短期化や早期色落ち・スミノリ症の発生など生産減少に直結した要素が多く、漁業経営が厳しくなっている。

アサリ採貝業に関しては、漁場の荒廃（ホトトギスガイの繁殖、浮泥の堆積、ナルトビエイ等による食害等）が進行しており、また、平成24年の九州北部水害以降は、河川から流入した土砂の堆積の影響により、二枚貝資源は壊滅的な被害を受け、未だ回復の目途がたっていない。

漁業者の高齢化や後継者不足及び新規就業者が少ないことも深刻な問題であり、漁業振興の大きな足かせとなっている。

更に、魚の価格低迷と燃油の高騰により、漁業者の収益は圧迫されており、地元水産業の衰退に拍車をかけている。

(2) その他の関連する現状等

近年、梅雨時期から夏場のゲリラ豪雨が多発し、河川からの流出入りごみ及び港内航路へ泥土砂の堆積が多く、干満の差が激しい当地区では、干潮間際は入出港が困難となっており、漁業者の漁にも支障を及ぼす状況となっている。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

(海苔養殖業)

海苔小間の間隔を広く開ける事により、潮の流れをスムーズにし、病気の蔓延を防ぐ。また、網の管理を徹底し活性処理剤の使用量減少を図る。省エネ機器導入、低速航行を心掛け、燃油使用量の削減を図る。

(アサリ採貝業)

漁場の底質改善のため、耕うん機や船等による耕うんを行い、泥土を攪拌させる事により漁場の再生を図る。

有害生物からアサリの捕食を防ぐため、防護ネット張り、刺し網によるエイ駆除等を実施しアサリ資源の保護を行う。

効果的なアサリ母貝及び稚貝の放流を行い資源の増殖を図る。またケアシエル設置数を段階的に増やし、アサリ養殖も視野に入れ、生産向上を図る。

(漁船漁業)

低速航行の厳守、省燃油機器の導入及び船底の清掃を行い、燃油コストの削減を図る。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

(海苔養殖業)

海苔養殖業に関しては、漁場改善計画に基づき、生産体制を厳守している。またそれに応じ、適正養殖可能数量を設定している。

(アサリ採貝業)

アサリ資源管理計画を策定しており、その中で殻幅12ミリ未満の採捕禁止、共販期間中も個人あたり2ネット（1ネット12キロ）の採捕制限を行っており、アサリ採貝期間の設定などを行っている。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成26年度）

（取組内容については、取組みの進捗状況や得られた成果等を踏まえて必要に応じて見直すこととする。）

漁業収入向上のための取組	<p>基準年対比1.3%向上目標</p> <ul style="list-style-type: none">・海苔養殖業 養殖業者は全員で、潮位にあわせた適切な網の高さ管理を徹底し、品質向上に努め、岱明の美味しい海苔の生産、ブランド化を目指す。また、定期的に葉体のサンプルを採取し、葉体のチェックを行うことで、生長具合及び病気の浸食状況を早期に発見し、品質低下を防ぐ。さらに、生産枚数を増やすため、作業工程の手法を遵守して過重等級（重くて固い海苔）を減少させる製品作りに取り込む。・アサリ採貝業 アサリ採貝業者は漁協とともに、アサリ資源管理計画（母貝、稚貝の撒き付け、囲い網によるアサリ保護区の包囲、有害生物の駆除、漁場調査、漁場耕うんによる底質改善、採捕規格、採捕数の制限）に基づき、アサリ資源の回復に取り組む。また、ケアシエル（稚貝採取袋）設置箇所を増やし、稚貝の定着率の高い漁場を見極め、ケアシエルを集中的に設置する箇所の増設を行うことで、効果的なアサリの資源回復を図る。また、アサリ養殖について可能性を検討する。・漁船漁業 漁船漁業者は、地産地消推進のため、地元飲食店協会等への鮮魚のPRを行い、その中で地元飲食店等のニーズをまとめ、ニーズに合わせた流通・販売を展開することによる収入向上を図る。また、未利用魚（日常流通に乗らない魚種）の流通・販売による新たな収入の確保を目指す。
--------------	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>基準年対比1.0%削減目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海苔養殖業 養殖業者は本年度から海苔小間の間隔を広く取り、潮の流れを良好にさせる。また、網の高さ管理を徹底することにより、支柱漁場の活性処理剤の使用量を削減する。また、活性処理剤の再利用を行うことで更なる削減を図る。 ・漁船漁業 漁船漁業者は、推進機関の整備及び船底の清掃を実施（清掃、塗料の塗り直し年1回）する。また、減速航行を行うことによりエンジン回転数を抑え、燃油消費量の削減に努める。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省エネ機器等導入推進事業、漁業経営セーフティーネット構築事業</p>

2年目（平成27年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>基準年対比1.4%向上目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海苔養殖業 養殖業者は全員で、潮位にあわせた適切な網の高さ管理を徹底し、品質向上に努め、岱明のおいしい海苔の生産、ブランド化を目指す。また、定期的に葉体のサンプルを採取し、葉体のチェックを行うことで、生長具合及び病気の浸食状況を早期に発見し、品質低下を防ぐ。さらに、生産枚数を増やすため、作業工程の手法を遵守して過重等級（重くて固い海苔）を減少させる製品作りに取り込む。 ・アサリ採貝業 アサリ採貝業者は漁協とともに、アサリ資源管理計画（母貝、稚貝の撒き付け、囲い網によるアサリ保護区の包囲、有害生物の駆除、漁場調査、漁場耕うんによる底質改善、採捕規格、採捕数の制限）に基づき、アサリ資源の回復に取り組む。また、ケアシェル（稚貝採取袋）設置箇所を増やし、稚貝の定着率の高い漁場を見極め、ケアシェルを集中的に設置する箇所の増設を行うことで、効果的なアサリの資源回復を図る。また、アサリ養殖について可能性を検討する。 ・漁船漁業 漁船漁業者は、地産地消推進のため、地元飲食店協会等への鮮魚のPRを行い、その中で地元飲食店等のニーズをまとめ、ニーズに合わせた流通・販売を展開することによる収入向上を図る。また、未利用魚（日常流通に乗らない魚種）の流通・販売による新たな収入の確保を目指す。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>基準年対比1.0%削減目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海苔養殖業 養殖業者は、海苔小間の間隔を広く取り、潮の流れを良好にさせる。また、網の高さ管理を徹底することにより、支柱漁場の活性処理剤の使用量を削減する。また、活性処理剤の再利用を行うことで更なる削減を図る。 ・漁船漁業 漁船漁業者は、推進機関の整備及び船底の清掃を実施（清掃、塗料の塗り直し年1回）する。また、減速航行を行うことによりエンジン回転数を抑え、燃油消費量の削減に努める。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省エネ機器等導入推進事業、漁業経営セーフティーネット構築事業</p>

3年目（平成28年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>基準年対比1.6%向上目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海苔養殖業 養殖業者は全員で、潮位にあわせた適切な網の高さ管理を徹底し、品質向上に努め、岱明の美味しい海苔の生産、ブランド化を目指す。また、定期的に葉体のサンプルを採取し、葉体のチェックを行うことで、生長具合及び病気の浸食状況を早期に発見し、品質低下を防ぐ。さらに、生産枚数を増やすため、作業工程の手法を遵守して過重等級（重くて固い海苔）を減少させる製品作りに取り込む。 ・アサリ採貝業 アサリ採貝業者は漁協とともに、アサリ資源管理計画（母貝、稚貝の撒き付け、囲い網によるアサリ保護区の包囲、有害生物の駆除、漁場調査、漁場耕うんによる底質改善、採捕規格、採捕数の制限）に基づき、アサリ資源の回復に取り組む。また、ケアシエル（稚貝採取袋）設置箇所を増やし、稚貝の定着率の高い漁場を見極め、ケアシエルを集中的に設置する箇所の増設を行うことで、効果的なアサリの資源回復を図る。また、アサリ養殖について可能性を検討する。 ・漁船漁業 漁船漁業者は、地産地消推進のため、地元飲食店協会等への鮮魚のPRを行い、その中で地元飲食店等のニーズをまとめ、ニーズに合わせた流通・販売を展開することによる収入向上を図る。また、未利用魚（日常流通に乗らない魚種）の流通・販売による新たな収入の確保を目指す。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>基準年対比1.0%削減目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海苔養殖業 養殖業者は、海苔小間の間隔を広く取り、潮の流れを良好にさせる。また、網の高さ管理を徹底することにより、支柱漁場の活性処理剤の使用量を削減する。また、活性処理剤の再利用を行うことで更なる削減を図る。 ノリ摘採後の積載量の制限と減速航行の慣行により、推進機関等への負担を減らし、燃油消費量を削減する。 ・漁船漁業 漁船漁業者は、推進機関の整備及び船底の清掃を実施（清掃、塗料の塗り直し年1回）する。また、減速航行を行うことによりエンジン回転数を抑え、燃油消費量の削減に努める。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省エネ機器等導入推進事業、漁業経営セーフティーネット構築事業</p>

4年目（平成29年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>基準年対比1.7%向上目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海苔養殖業 養殖業者は全員で、潮位にあわせた適切な網の高さ管理を徹底し、品質向上に努め、岱明のおいしい海苔の生産、ブランド化を目指す。また、定期的に葉体のサンプルを採取し、葉体のチェックを行うことで、生長具合及び病気の浸食状況を早期に発見し、品質低下を防ぐ。さらに、生産枚数を増やすため、作業工程の手法を遵守して過重等級（重くて固い海苔）を減少させる製品作りに取り込む。 ・アサリ採貝業 アサリ採貝業者は漁協とともに、アサリ資源管理計画（母貝、稚貝の撒き付け、囲い網によるアサリ保護区の包囲、有害生物の駆除、漁場調査、漁場耕うんによる底質改善、採捕規格、採捕数の制限）に基づき、アサリ資源の回復に取り組む。また、ケアシエル（稚貝採取袋）設置箇所を増やし、稚貝の定着率の高い漁場を見極め、ケアシエルを集中的に設置する箇所の増設を行うことで、効果的なアサリの資源回復を図る。また、アサリ養殖について可能性を検討する。 ・漁船漁業 漁船漁業者は、地産地消推進のため、地元飲食店協会等への鮮魚のPRを行い、その中で地元飲食店等のニーズをまとめ、ニーズに合わせた流通・販売を展開することによる収入向上を図る。また、未利用魚（日常流通に乗らない魚種）の流通・販売による新たな収入の確保を目指す。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>基準年対比1.0%削減目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海苔養殖業 養殖業者は、海苔小間の間隔を広く取り、潮の流れを良好にさせる。また、網の高さ管理を徹底することにより、支柱漁場の活性処理剤の使用量を削減する。また、活性処理剤の再利用を行うことで更なる削減を図る。 ノリ摘採後の積載量の制限と減速航行の慣行により、推進機関等への負担を減らし、燃油消費量を削減する。 ・漁船漁業 漁船漁業者は、推進機関の整備及び船底の清掃を実施（清掃、塗料の塗り直し年1回）する。また、減速航行を行うことによりエンジン回転数を抑え、燃油消費量の削減に努める。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省エネ機器等導入推進事業、漁業経営セーフティーネット構築事業</p>

5年目（平成30年度）

（最終年度であり、今までの成果を検証するとともに、取組内容を見直しつつ、引き続き以下の取組を確実に実施する。）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>基準年対比1.8%向上目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海苔養殖業 養殖業者は全員で、潮位にあわせた適切な網の高さ管理を徹底し、品質向上に努め、岱明のおいしい海苔の生産、ブランド化を目指す。また、定期的に葉体のサンプルを採取し、葉体のチェックを行うことで、生長具合及び病気の浸食状況を早期に発見し、品質低下を防ぐ。さらに、生産枚数を増やすため、作業工程の手法を遵守して過重等級（重くて固い海苔）を減少させる製品作りに取り込む。 ・アサリ採貝業 アサリ採貝業者は漁協とともに、アサリ資源管理計画（母貝、稚貝の撒き付け、囲い網によるアサリ保護区の包囲、有害生物の駆除、漁場調査、漁場耕うんによる底質改善、採捕規格、採捕数の制限）に基づき、アサリ資源の回復に取り組む。また、ケアシエル（稚貝採取袋）設置箇所を増やし、稚貝の定着率の高い漁場を見極め、ケアシエルを集中的に設置する箇所の増設を行うことで、効果的なアサリの資源回復を図る。また、アサリ養殖について可能性を検討する。 ・漁船漁業 漁船漁業者は、地産地消推進のため、地元飲食店協会等への鮮魚のPRを行い、その中で地元飲食店等のニーズをまとめ、ニーズに合わせた流通・販売を展開することによる収入向上を図る。また、未利用魚（日常流通に乗らない魚種）の流通・販売による新たな収入の確保を目指す。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>基準年対比1.0%削減目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海苔養殖業 養殖業者は、海苔小間の間隔を広く取り、潮の流れを良好にさせる。また、網の高さ管理を徹底することにより、支柱漁場の活性処理剤の使用量を削減する。また、活性処理剤の再利用を行うことで更なる削減を図る。 ノリ摘採後の積載量の制限と減速航行の慣行により、推進機関等への負担を減らし、燃油消費量を削減する。 ・漁船漁業 漁船漁業者は、推進機関の整備及び船底の清掃を実施（清掃、塗料の塗り直し年1回）する。また、減速航行を行うことによりエンジン回転数を抑え、燃油消費量の削減に努める。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省エネ機器等導入推進事業、漁業経営セーフティーネット構築事業</p>

※プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄は適宜増やすこと。

※「活用する支援措置等」欄に記載するのは国の支援措置に限らない。

(4) 関係機関との連携

行政（玉名市、県）、系統団体（熊本県漁業協同組合連合会）と連携して事業を行う。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年	平成 年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成 年度 : 漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省エネ機器等導入推進事業	燃油消費量削減（省エネ型機械の導入）
二枚貝資源緊急増殖対策事業のうち二枚貝増殖実証事業	アサリ資源の増殖
漁業経営セーフティーネット構築事業	漁業経費の削減（燃油購入負担割合軽減）
水産多面的機能発揮対策事業	アサリ漁場の保全活動の実施
有害生物漁業被害防止総合対策事業	アサリ資源の保護
泊地航路浚渫事業・冠水対策事業	漁業者の利便性の向上と航行、寄港時の危険性の回避

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。